

サステナビリティ担当役員メッセージ

中期経営計画のコアとしてのサステナビリティ戦略



取締役 兼 専務執行役員
サステナビリティ戦略部担当

徳成 旨亮

進化したサステナビリティをめぐる取り組み

サステナビリティ担当役員とCFO（最高財務責任者）を兼務してから1年余りが経過し、ニコンのサステナビリティは大きく進化しました。

「サステナビリティ方針」や「グローバル・タックス・ポリシー」を取締役会で決議し、有価証券報告書には気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）に準拠した「気候変動に関するリスクと機会」を開示しました。

さらに、中期経営計画策定においては、各事業の本業とサステナビリティ戦略を一体のものとして同時に議論し、具体的な計画に落とし込みました。

社会の期待に「信頼」で応える

サステナビリティに関する12のマテリアリティ（重点課題）をニコンの企業理念である「信頼と創造」で分類すると、「社会の期待に『信頼』で応える」テーマと「『創造』を通じて社会に貢献する」テーマとに分けることができます。

「信頼」の部分では、環境、社会・労働、ガバナンスの各分野でマテリアリティへの取り組みを強化します。

具体的には、環境分野において、2051年3月期のカーボンニュートラルに向け、2026年3月期までに事業所からの温室効果ガスを46.5%削減するという高い目標を掲げ、取り組みを進めています。

また、社会・労働のダイバーシティ&インクルージョンでは、女性の管理職比率8%以上、新卒採用の女性比率25%以上という数値目標の実現をめざします。

「創造」を通じて社会に貢献

一方、「創造」では、3D/4D映像の制作技術で時間・空間/現実と仮想（メタバース）を超えて人がつながる社会に寄与する、顕微鏡を活用した高精度な細胞の品質評価で創薬を支援し医師や患者の負担を軽減する、あるいは、人工衛星モジュール提供などを通じて宇宙産業・技術の発展に寄与するといった取り組みを本業の中で行っていきます。

このようにニコンは、光と精密技術というコア・テクノロジーでサステナブルな社会の実現に貢献します。

非財務的価値と財務的価値の連関

サステナビリティへの取り組みは、社会的価値・非財務価値の拡大をもたらし、それは一定の時間軸の中で、ROEや株価・時価総額などの財務的価値の向上につながると考えられます。こうした背景から、財務に責任を持つCFOとして、サステナビリティ活動を今後とも推進してまいります。